

大分県豊後大野市

神楽会館

KAGURAKAIKAN

2023 公演

入場料 一般:1,000円 中学生以下:500円

(当日はともに500円増)

※チケットは事前予約
もしくは当日販売で受付致します。
お問い合わせは神楽会館まで

先人達の英知と情熱で
受け継がれた「神楽」。
舞手の鼓動や息づかいが
伝わってくる
神代の世界に触れる。

あさくさりゅうおおきかぐら
浅草流大木神楽

ほうゆうかい
豊勇會



あさくさりゅうくろまつかぐら
浅草流黒松神楽



たけなかかぐらほぞんかい
竹の中神楽保存会



おんだけかぐら
御嶽神楽



あさくさりゅうほそえだかぐら
浅草流細枝神楽



しょうないばるかぐらほぞんかい
庄内原神楽保存会



いたいごしんめいしやかぐらざ
板井迫神明社神楽座

2023年12月17日(日) 12:30~15:30

12月
(第174回)
一般公演

出演団体
浅草流黒松神楽
竹の中神楽保存会

発売日 2023年10月17日(火)

2024年1月21日(日) 12:00~15:30

1月
(第175回)
新年
特別公演

出演団体
豊勇會
浅草流大木神楽
庄内原神楽保存会

発売日 2023年11月21日(火)

2024年2月18日(日) 12:00~16:00

2月
(第176回)
立春
特別公演

出演団体
御嶽神楽

発売日 2023年12月18日(月)

2月の立春
特別公演は
500円増

2024年3月17日(日) 12:30~15:30

3月
(第177回)
一般公演

出演団体
浅草流細枝神楽
板井迫神明社神楽座

発売日 2024年1月17日(水)

チケット販売場所 豊後大野市神楽会館

主催/豊後大野市神楽会館 共催/豊後大野市、豊後大野市教育委員会

後援/NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・J:COM大分ケーブルテレコム・エフエム大分
大分合同新聞社・朝日新聞大分総局・読売新聞西部本社・毎日新聞社・シティ情報おおいた

お問い合わせ/豊後大野市神楽会館 〒879-6903 豊後大野市清川町砂田810番地 TEL:0974-35-2372

神楽会館 検索 全席指定/288席(車いす席3席・介助者席3席)

神楽会館HP ⚠️ ホール内でのフラッシュ撮影及び、席を移動しての撮影は禁止といたします。



【交通アクセス】
■ JR豊肥本線利用の場合
大分～豊後清川駅…50分
豊後清川駅より…徒歩5分
■ 車利用の場合
大分から…50分
福岡から…3時間
大分空港から…2時間

12月

(第174回)

一般公演

あさくさりゅうくろまつかぐら

浅草流黒松神楽

犬飼町黒松阿蘇神社所属の神楽座。大野町川北から約150年前に伝授されたと伝わり、明治35年には東京での奉納を行うなど、古くから活動範囲は広く活発である。

浅草流の伝統的な持ち味である軽快さとスピード感に加え、舞の華麗さを信条としており大野系岩戸神楽らしい勇壮さと美しさを併せ持つ舞を得意としている。

たけのなかかぐらほぞんかい

竹の中神楽保存会

竹の中神楽保存会は、由布市庄内町大津留地区を拠点とし、庄内神楽座長会に所属する神楽団体である。

明治35年に浅草流高津神楽より伝授され、地元神社を初め、県内各地で活動を行っている。決して派手さはないが昔から続く素朴で味わいのある神楽を、後世に残すべく日々練習に励んでいる。

また、4月から11月の定期公演をはじめ、地方公演、各種イベントに参加するなど好評を得ている人気の高い神楽座である。

1月

(第175回)

新年特別公演

ほうゆうかい

豊勇會

豊勇會は2003年夏、豊後大野市三重町の「らいでん祭り」発足を期に、株式会社豊肥環境センターの勇士20名にて結成された。

それ以来「地域社会への貢献・発展・創造」を柱に、年間を通じて地道な鍛錬を重ねている。

秋から春までのオフシーズンには稽古の一環として、又冷めやらぬ熱い情熱のはげ口として「和太鼓」に挑戦し、更なる“豊勇會らしさ”を探求し続けている。

あさくさりゅうおおぎかぐら

浅草流大木神楽

大木神楽は、県内でも多く伝播している勇壮・活発な浅草流の流れを汲む神楽座。江戸時代末期より伝承され、浅草流の中でもおはやしのテンポが速いのが特徴とされている。

明治8年には大分市中戸次に伝播されている。近年は若者の減少により大木地区だけでは伝承していくことが困難になりつつも、誇りと使命感を強く持ち伝統を守り続けている。

しょうないぼるかぐらほぞんかい

庄内原神楽保存会

「安永7年(1778)に社家集団による神楽の奉納が行われた。」という記録がある大分県由布市の庄内神楽。今のような形として始められたのは、明治の初期に一般の氏子などによる同好会的な神楽舞集団が組織されるようになり、大野系岩戸神楽発祥の地から伝承されたもので、浅草流を継承している。庄内地区系の神楽を継承する庄内原神楽保存会は、昭和2年に小原神楽座として発足、昭和51年に庄内原神楽保存会となった。また、出雲神楽の長所を取り入れた娯楽性の高い神楽で、比較的早いテンポにのって勇壮に、時にはユーモラスに舞いつがれ、人気を博している。

2月

(第176回)

立春特別公演

おんだけかぐら

御嶽神楽

宝徳元年(1449)大友親隆公がこの地に御嶽神社を勧請した際に発祥したといわれる神楽。平成19年に国の重要無形民俗文化財に指定され、その調査研究事業により江戸時代後期に当時の神主加藤筑後守長古により現在ある形の大野系岩戸神楽の原形が創られたことがわかり、無形の民俗文化財として、学説的な裏打ちがなされ貴重な芸能となっている。一時はその存続さえも危ぶまれた時期もあったが、当時の清川村あげての保存活動によって復活。御嶽流神楽大会、大分県総合文化センターでの単独公演、国際民俗芸能フェスティバルへの出演など活発に活動している。

3月

(第177回)

一般公演

あさくさりゅうほそえだかぐら

浅草流細枝神楽

臼杵市野津町大字東谷字細枝の日吉神社に所属している浅草流の神楽座。旧大野郡俣楽会に所属しており現在も豊後大野俣楽会の一員として、地域に根ざした無形文化財の保存に努め、年間多くの奉納舞を行い日々精進している。

平成6年には細枝神楽ジュニアクラブを発足させ、神楽座の後継者を育成し、かつ神楽を通じた青少年の健全育成を行うなど、活躍している神楽座である。

いたいざこしんめいしゃかぐらざ

板井迫神明社神楽座

豊後大野市朝地町板井迫地区に伝わる深山神社を中心に発展した深山流岩戸神楽を継承する神楽座。朝地町には一時、深山八幡社、若宮八幡社、綿田俵積神社、板井迫神明社の4社に神楽座があり舞い伝えられていた。

しかし、過疎高齢化のため、各神楽座の独立した活動が難しくなり次々と休止に追い込まれたが、平成11年地区の有志により再興がこころみられ見事復活、勇壮・軽快で堅実さに魅力があり、今では子ども神楽の指導も行うなど活発な活動を行っている。